

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

折尾東 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回ったが、漢字の読み書きは、基礎ができていた。 ・話すこと、聞くことに関する問題に課題が見られる。聞く力などを育てていく必要がある。
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を読んだり、書いたりする問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	故事成語の使い方として適切なものを選択する問題は、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったが、言語知識理解は、基礎ができていた。また、無解答の問題数が少なかった。 ・自分の考えを書く問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	詩の表現の特徴や工夫を捉える問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	分かったことや疑問に思ったことを整理し、まとめて書く問題は、正答率が低かった。

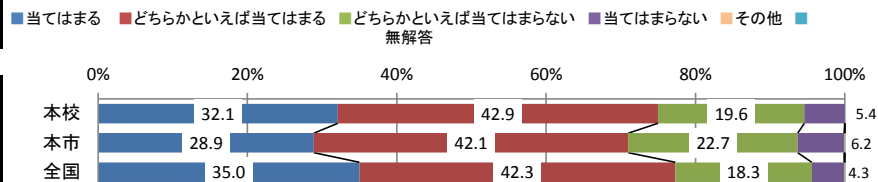
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや下回ったが、量の測定については、正しく求めることができていた。 ・数量関係についての問題に課題がある。四則の混合した式の意味理解を定着させる必要がある。
	よくできた問題	1cm ³ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	減法と乗法の混合した整数の計算をする問題は、正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回ったが、数量についての技能が高くなり、応用できるようになった。 ・記述式の問題では、無解答率が高く、課題が見られた。筋道を立てて考え、考えたことを表現していく力を育てる必要がある。
	よくできた問題	(2位数)×(1位数)の筆算をし、積に同じ数字が並ぶものを選ぶ問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	計算のきまりを基に、工夫して計算する方法を記述する問題は、正答率が低かった。

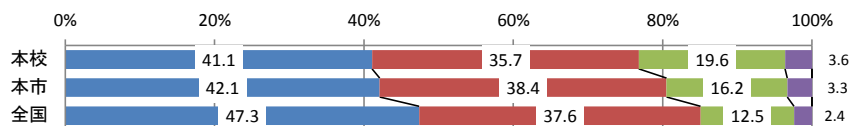
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

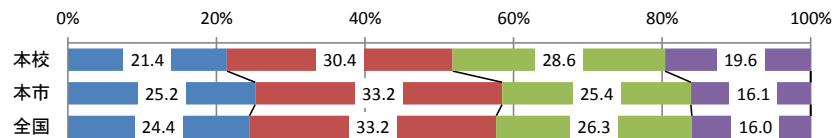
41
授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか



43
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



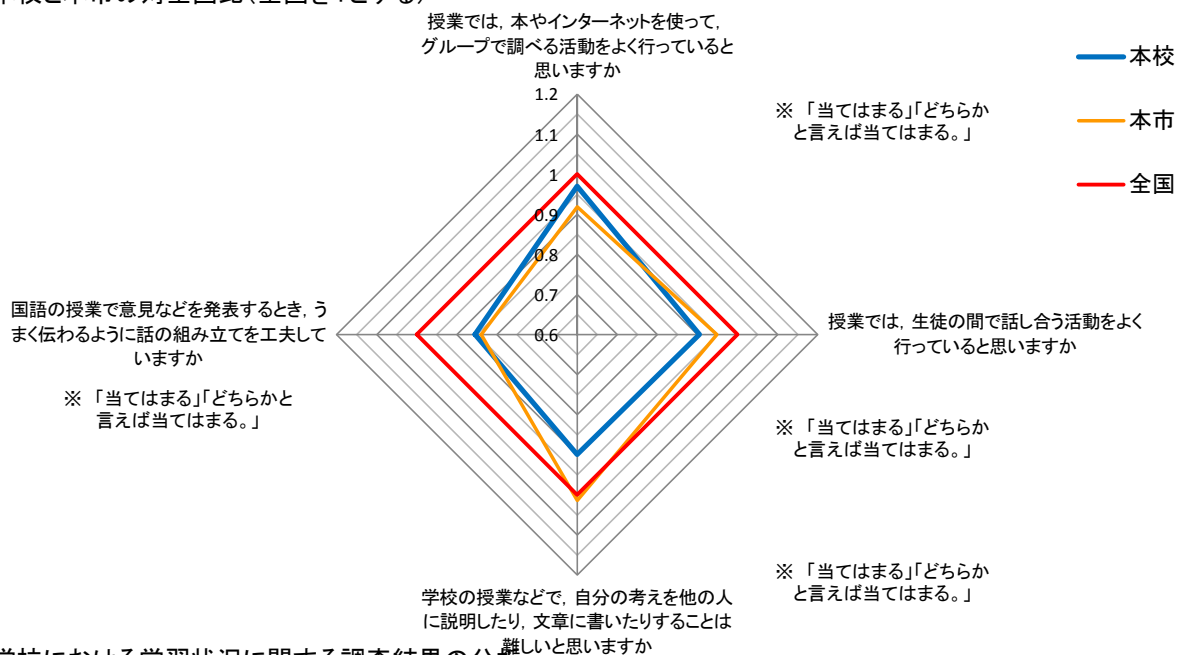
47
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



56
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



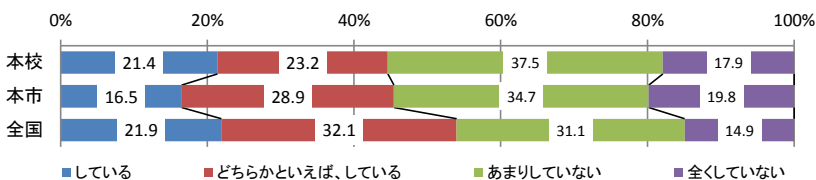
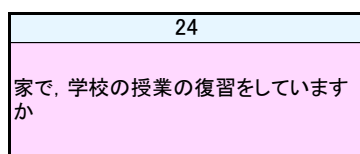
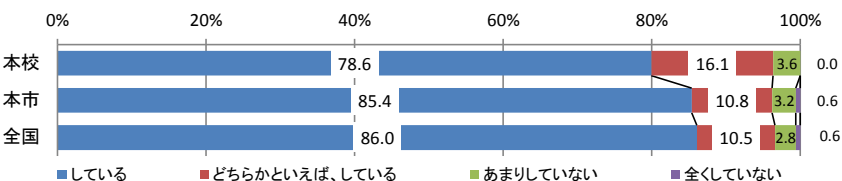
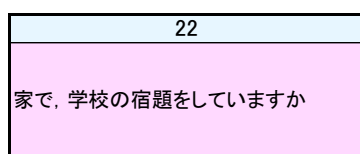
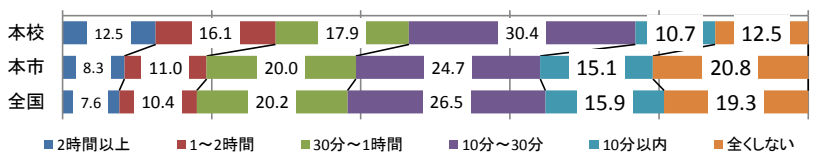
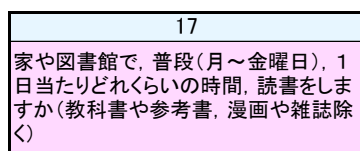
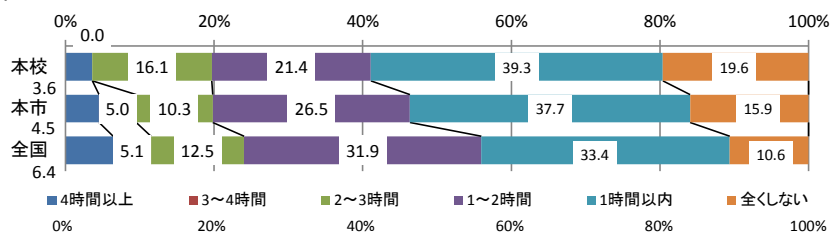
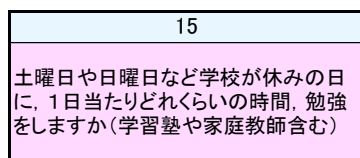
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・話し合う活動が年々よく行われてきている。また、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している児童も年々増加傾向にある。それにともなって、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思っている児童の割合が減少してきた。しかしながら、以前全国との差があり、課題といえる。今後も引き続き、相手にうまく伝えることができる指導法の研究・改善を全職員で行っていく。

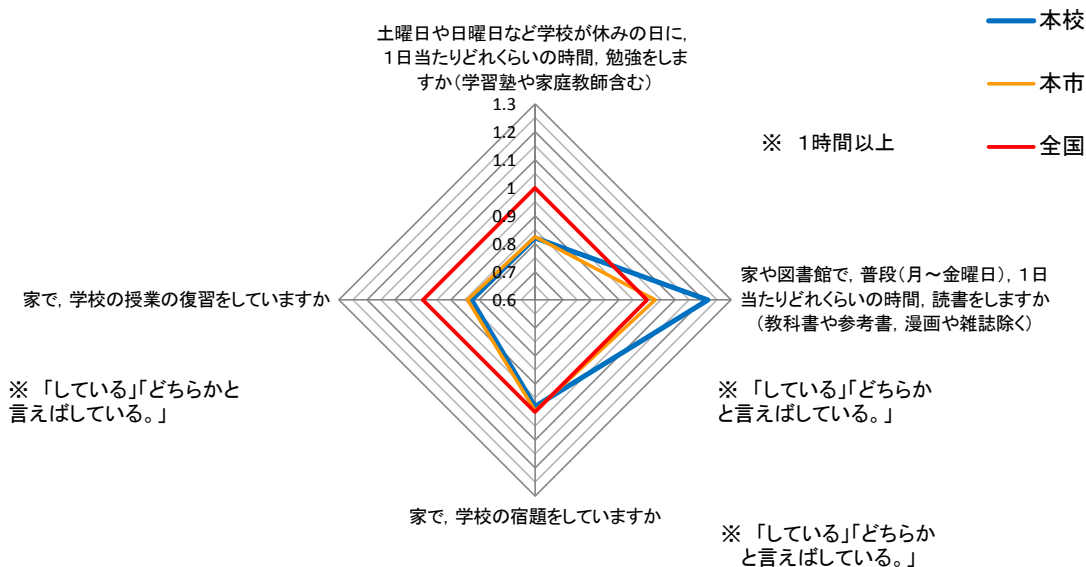
・文章を書くことに抵抗感をもっている児童がいるため、授業の中で、自分の考えを書く活動を位置付けるなど、書くことを授業に取り入れる必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



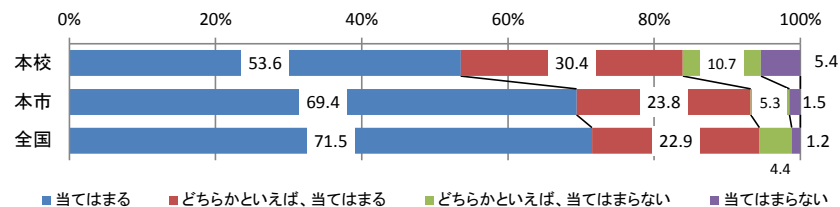
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1日2時間以上、読書をする児童の割合が全国や本市と比較しても高い。これは、朝の読書の時間や家庭学習での読書などが習慣化されているためだと考える。

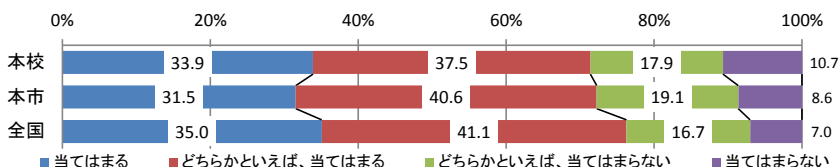
・学校が休みの日の勉強時間は、3時間以上する児童の割合が年々減少してきている。逆に、全くしない児童の割合が増加してきている。家庭学習の時間確保と自主学習の啓発を今後も機会をとらえて行っていく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

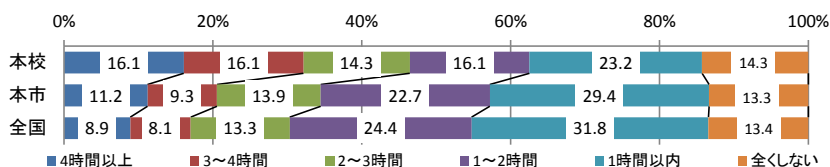
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



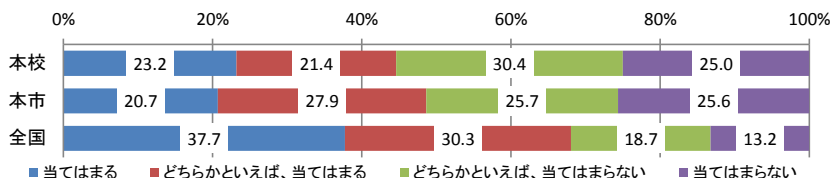
6
自分には、よいところがあると思いますか



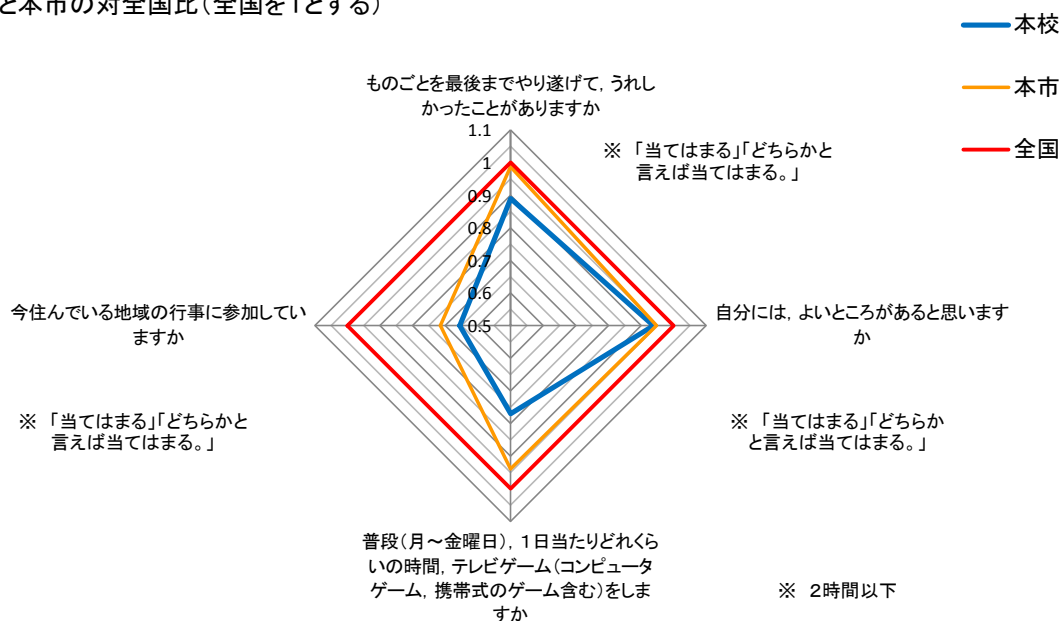
12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



29
今住んでいる地域の行事に参加していますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・自分にはよいところがあると思っている児童の割合が増加し、全国や本市と比較すると、差が縮まった。自分や友だちのよい言動を認め合う場の設定が継続して行われているためだと考える。
- ・1日に2時間以上、テレビゲームをする児童の割合が増加し、全国や本市と比較しても差が大きい。家庭内でゲーム時間を設定することや、ゲーム時間を減らして勉強時間を増やす工夫をしていくことが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習(国語・算数のアシストシート問題、視写、音読、読書などを曜日を決めて実施)
 - ・問題プリント作成(教務、少人数教員)
- ◎ アシストシートの活用
 - ・アシストシートを冬休みや春休みの宿題とする。
- 話す力・聞く力・伝え合う力を育む指導法の研究
 - ・話型などの掲示物を作成し、活用する。
 - ・ペア学習、小集団学習などの学習形態を工夫する。
 - ・ワークシートを工夫する。
- 書くことを授業に多く取り入れる。
 - ・授業の中で、自分の考えを書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 家庭学習の時間確保と自主学習の啓発
 - ・懇談会や通信等で、家庭学習の時間設定や自主学習の啓発を行う。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用を促す。
 - ・冬休み、春休みの宿題にアシストシートを活用する。
- 全国学力・学習状況調査の結果と取組等を保護者へ周知
 - ・懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。